

6月14日（金）社会福祉法人 パレット・ミルを訪問しました！

## 対談テーマ

### 養護学校高等部卒業後の就労を見据えた特別支援教育について

社会福祉法人パレット・ミルにおける利用者が取り組む、自立した日常生活または社会生活を営めるような生産活動や、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練等を見聞し、就労支援施設の実態を把握するとともに、就労を見据えた今後の特別支援教育について対談しました。

#### 訪問した委員

土井 真一 委員      野村 早苗 委員  
石井 太 委員      塚本 晃弘 委員



#### 社会福祉法人パレット・ミルについて

ハンディのある利用者の方の自立のために工賃の最低賃金水準を目指し、様々な生産活動の機会の提供や、就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練等に取り組まれています。就労支援事業所カラフルの電装関係の導通検査やケーブルカットの作業等様々な現場を見学しました。どの作業場にも、誰もが作業しやすくなる支援や工夫が見られました。

#### 意見交換より

委員：品質を保持するために、作業の安全性や効率化が求められる一方で、利用者の主体性を伸ばしつつ、スキルアップを目指す必要がある。この兼ね合いをどうされていますか。

パレット・ミル：心掛けたことは、コストパフォーマンスが考えられる企業出身者を職員に採用し、指導員は担当を固定せず、利用者の状況を把握し情報交換をしながらチームで支援しています。

委員：作業をする場所はどのようにして決まりますか。また企業就労先での状況把握やフォローはどうされていますか。

パレット・ミル：事業所内では最初は簡単な作業から経験。一つの仕事に留まらず、時期によって仕事の量も異なるので、様々な仕事を経験してもらい、各々に合った仕事を探ります。企業就労後の支援は企業によって様々ですが、どの人にも3年半まで支援ができる定着支援事業を立ち上げ、出来るだけ長く支援を続けています。

委員：忙しさにかまけて受け入れ態勢が不十分な企業が多いと思う。企業として考えなければならないことを教えてください。

パレット・ミル：自分より後に入社された方が、やがて上司となり、障害者雇用に理解がなく心無い言葉をかけられることで、精神的に追い込まれ、企業からリタイヤされる40代の方が多い。互いの理解を深めるためにはインクルーシブ教育が必要だと思います。

委員：特別支援学校を卒業してすぐ企業就労するのと就労支援施設を経て就労する差はなにか、教育に必要なこととは。また就労を支える側になる通常の高校教育に必要なこととは何かご意見を伺いたい。

パレット・ミル：みんな一緒に育つべきだと思います。各学校に加配をつけて、必要な支援をして欲しい。勉強も大事だが、学校は人とのかかわりを学ぶ社会の第一歩。社会で必要な教育内容は、コミュニケーションや生活に関わる基本的な事（マナー・時間・お金の使い方・性教育等を各教科で）だと思う。ここでは社会生活をする上で必要なことを一から教えます。将来楽しく、心豊かに生活するために勉強をするべきで、お互いに、今後の生活がし易くなるためにという視点で教育して欲しいです。